

主の前に立つ

ヨハネによる福音書二一章1〜8節

イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言つた。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸だったので、上着をまとつて湖に飛び込んだ。(7)

ガリラヤ湖で夜通し漁をしたものの何も捕れず、岸へ戻ろうとした弟子たちに主イエスが声をかけ、その通りにしたとき、網一杯の多くの魚が捕れました。主の愛弟子がペトロに、「主だ」と言うと、裸だったペトロはわざわざ上着をまとつて湖に飛び込みました。普通はこの逆で、着ていたものを脱ぎ、裸になって飛び込むものです。ところがペトロは、裸であったために上着を着て飛び込んだのです。この不思議なペトロの行動は、主イエスの前に立つ時の畏れを表しているようです。神の前に立つことなど許されないはずの罪人が、一方的な恵みと憐れみによって招かれ、聖なる神の前に立とうとしたのです。そのときペトロは、主への感謝と聖なる畏れの心をそのような行為をもって表したのです。毎週の礼拝において、私たちも神を畏れる思いをもって主の前に立とうではありませんか。